三井海洋開発株式会社
2024年12月期　プレゼンテーション資料

2025年2月14日

Disclaimer

This presentation has been prepared by MODEC, Inc. (the “Company”) solely for information purpose only. The information contained herein is based on current economic, regulatory, market trends and other conditions. The Company makes no representation or guarantee with respect to the credibility, accuracy or completeness of the information herein. The information contained herein may change without prior notice. You may not publish or use this presentation and the contents thereof for any other purpose without a prior written consent of the Company. Furthermore, the information on future business results are forward-looking statements. Forward-looking statements include but not limited to expressions such as "*believe*", “*expect*", "*plan*", "*strategic*", "*expect*", "*anticipate*", "*predict*" and "*possibility*", as well as other similar expressions to explain future business activities, achievements, events and future conditions. Forward-looking statements are predictions about the future that reflect management's judgment based on currently available information. As such, these forward-looking statements are subject to various risks and uncertainties that could cause actual results to differ materially from those expressed in or suggested by the forward-looking statements. Therefore, you may not rely entirely on forward-looking statements. The Company does not assume any obligation to change or correct any forward-looking statements in light of new information, future events or other findings.

This presentation is being furnished to you solely for your information and may not be reproduced or redistributed to any other person. In giving this presentation, the Company does not undertake any obligation to provide the recipient with access to any additional information or to update this presentation or any additional information or to correct any inaccuracies in any such information which may become apparent. This document does not constitute or form part of and should not be construed as, an offer to sell or issue or the solicitation of an offer to buy or acquire securities of the Company.

Information on companies other than the Company and information provided from third parties are based on public information or sources. The Company has not independently verified the accuracy and appropriateness of such data and indicators used herein, nor assume any responsibility for the accuracy and appropriateness of such data and indicators presented in this document.

目次

1. 2024年度ハイライト
2. 当社概要
3. 事業環境
4. 決算概要
5. 業績見通し
6. 補足資料

1. 2024年度ハイライト

2024年度ハイライト
業績サマリー

売上収益

$ 4,186MM

- 上方修正後の通期業績予想に対して97%の着地
- 前年同期比$611MM（+17%）の増加
- 過去最高の売上収益

当期利益

$ 220MM

- 上方修正後の通期業績予想に対して110%の進捗
- 前年同期比$123MM（+128%）の増加
- 過去最高益

調整後 EBITDA

$ 328MM

- 前年同期比$109MM（+50%）の増加

格付情報（Fitch）

BBB-/Positive

- EPCI：3件の既存大型FPSO案件の建造工事が順調に進捗
- O&M：全般的に稼働率とコストが改善
- Charter：２隻のチャーター案件が通年寄与（チャーター開始時期：MV32 - 2023/5; MV33 - 2023/8）

2024年度ハイライト – 上半期のトピックス

Shell社向けFPSOの基本設計業務受注 / 株式の売出し / 脱炭素化の推進 / Woodside社向け Sangomar FPSOの原油生産開始

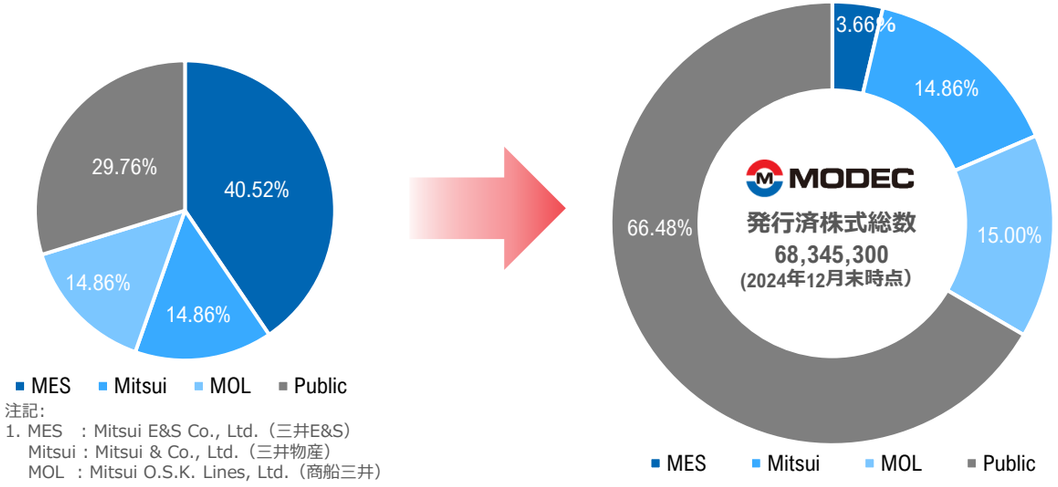
Shell Gato do Mato FPSO – 基本設計業務を受注（2024年3月）

- Shell社のブラジル沖合のGato do Matoプロジェクト向けFPSOのFEED（Front-End Engineering Design: 基本設計）業務をシングルソースとして受注
- 当社がShell社のブラジル向け海洋石油･ガス開発プロジェクト向けに提供するFPSOとして2基目

顧客	Shell do Brasil Ltda
契約	FEED Contract
鉱区	Gato do Mato Field
所在地	ブラジル

株式の売出しを実施（2024年5月）

- 当社株式40.5%を所有する株式会社三井E&S（“MES”）は36.9%相当の当社株売出しを実施
- 三井グループとリレーション維持の一方、投資家層の拡大、当社株式の流動性向上を図ると共に、東京証券取引所のプライム市場上場維持基準を充足
- 2024年3月の定時株主総会での承認を受け、「監査役設置会社」から「監査等委員会設置会社」に移行



注記:
1. MES ：Mitsui E&S Co., Ltd.（三井E&S）
Mitsui：Mitsui & Co., Ltd.（三井物産）
MOL ：Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.（商船三井）

FPSO Bacalhau - 環境負荷軽減認証を取得（2024年5月）

- 現在建造中のBacalhau FPSOはガスタービン・コンバインドサイクル（”GTCC”）発電方式を搭載した世界初のFPSO（GTCCは年間10万トン以上の二酸化炭素排出量削減効果）
- GTCC方式の発電設備等によりBacalhauは石油生産1バレル当りの二酸化炭素排出量が業界最小のFPSOとなる
- Bacalhauはノルウェーの船級協会DNVから4つのクラス(P+, F, Pr, S)で「環境負荷軽減認証（Abate Notation）」のAiP（Approval in Principle：基本承認）取得

Woodside Sangomar FPSO – 原油生産を開始（2024年6月）

- 本FPSOは、セネガル・ダカール市の南方約100km沖合に位置するセネガル初の海洋石油・ガス開発プロジェクト向けに当社が建造。6月に原油の生産を開始
- 今後 10 年間にわたり、本FPSOのオペレーション&メンテナンス・サービスを当社が提供

顧客	Woodside Energy B.V.
契約	EPCI + O&M (10年+ 1年毎×10の延長オプション)
鉱区	Sangomar Field
所在地	セネガル

2024年度ハイライト – 下半期のトピックス

グローバルな体制強化 / ブルーアンモニアFPSO / Equinor社向けBacalhau FPSOの出航 / フリートのアップデート

マレーシアとインドに新拠点を開設（2024年5月、10月）

- 当社は、東洋エンジニアリング株式会社（”TOYO”）との合弁会社であるOffshore Frontier Solutions Pte. Ltd. (“OFS”) を通じて、マレーシアとインドに拠点を設け、EPCI能力を更に強化

OFS Malaysia（クアラルンプール）

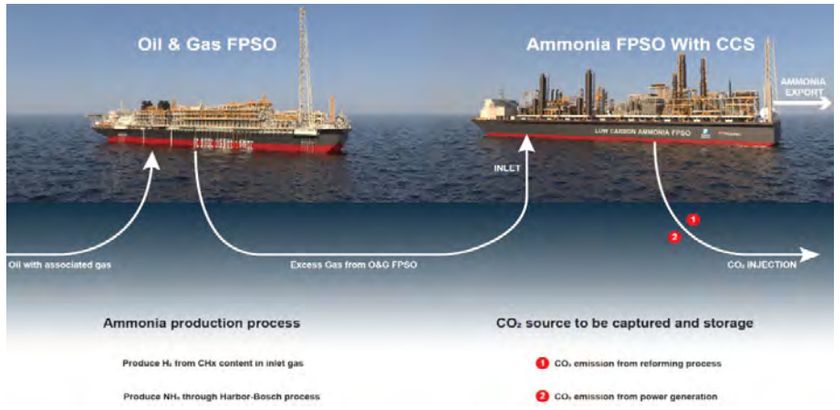
- ✓ 東南アジア地域における戦略拠点として、EPCI案件の実行を支援
- ✓ シンガポールから移転する従業員に加えて、エンジニアリング及びその他のコーポレートサポート業務を担う200名以上の新規採用を予定

OFS India（バンガロール）

- ✓ 南アジア地域におけるグローバル･ケイパビリティ･センター（Global Capability Center）として、EPCI案件の基本設計（”FEED”）と詳細設計の実行、調達支援サービスを提供
- ✓ 450名体制を予定

ブルーアンモニアFPSOの基本設計承認をABSより取得（2025年1月）

- TOYOと共同で、FPSOで生産されるガスからアンモニアを製造するブルーアンモニアFPSOのAiP（Approval in Principle：基本設計承認）を米国船級協会（ABS）より取得
- 当該FPSOは、これまで特別な用途がなく貯留層に圧入されていた余剰随伴ガスからブルーアンモニアを製造し、貯蔵及び積出まで実行可能。また、二酸化炭素回収・貯留設備（”CCS”）の搭載により、アンモニア製造に伴うFPSOからの二酸化炭素排出量を最小化
- この共同開発は、中期経営計画2024-2026『イノベーションで持続可能な未来を拓く』において掲げている「浮体式代替エネルギー生産設備のコンセプト・デザイン」の第1号



Equinor Bacalhau FPSOがブラジルに向け出航（2024年12月）

- Bacalhau FPSOはシンガポールでの建造工事を完了し、鉱区のあるブラジルに向け出航
- ブラジルに配備される最大級のFPSOであり、Equinor社にとってブラジルでの初めてのプレソルト油田プロジェクトとして当社が建造。サンパウロ州から約185km沖合のサントス盆地に位置するBacalhau油田で生産予定
- 当社がブラジル向けに提供するFPSO/FSOとして17基目

Charter/O&M フリートのアップデート（サマリー）

- 古い契約から新しい契約への置き換えが進捗

Fluminense	2024年6月にO&Mサービス終了
Sangomar	2024年6月にO&Mサービス開始
MV12	Charterサービス終了、2024年11月に用船者に売却完了
MV18	生産終了、撤収作業を2024年1月に開始
MV20	2024年12月に生産終了、撤収作業を2025年1月に開始
MV17	2024年12月にCharter契約を2026年まで延長（1年延長）
MV22	2025年1月にCharter契約を2030年まで延長（5年延長）
MV10	Charterサービス終了、2025年2月に用船者に売却完了

2. 当社概要

当社概要

海洋石油・ガス開発業界におけるリーディングカンパニー

1968年に設立した当社は、 EPCI・O&M・Charterといったサービスを通じ、
世界中の海洋石油・ガスの生産事業にトータル・ソリューションを提供するリーディング・カンパニー

財務ハイライト

2024年事業別利益		2024年主要データ	
EPCI/O&M[1]	US$344MM	Net Income（当期利益）	US$220MM
Charter[2]	US$237MM	Adj. EBITDA	US$328MM

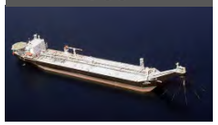
2024年 主要財務指標	
Total Debt（有利子負債）	US$514MM
Equity（株主資本）	US$1,180MM
Total Debt / Equity	0.44x
Total Debt / Adj. EBITDA	1.6x

FPSO

生産設備を持つ浮体式海洋石油・ガス生産積出設備
超大水深地域にも対応

完工実績	34
● 操業中	18

FSO



生産設備を持たない浮体式海洋石油･ガス貯蔵積出設備
超大水深地域にも対応

完工実績	11
● 操業中	2

TLP/MOPU

TLPは建造実績世界No.1
浮体式洋上風力発電事業ではTLP/セミサブ技術を活用

TLP 完工実績	6
MOPU 完工実績	1

当社実績（2024年12月末時点）(*)

- ✓ 超大水深で利用されるFPSOsのCharter案件数 **世界第1位** (50%)
- ✓ FPSOs/FSOs (34基)の累計操業年数 **300年以上**
- ✓ **52基** の完工実績と **3基** の建造中案件
- ✓ **17基** のFPSOs/FSOsを世界各地でCharter中
- ✓ **20基** のFPSOs/FSOsにおいて当社グループ会社がO&Mサービスを提供
- ✓ **6,000名** の多国籍従業員で構成されるグローバルチーム

プロジェクト実績 20ヶ国57件

事業拠点 18ヶ国27ヶ所 (**)

出所:
(*) 当社調べ、EMA Floating Production Systems Outlook Report 2024-2028 Outlook
(**)当社ウェブサイト. 地図上の案件は完工実績を含む

注記:
1. SPCから支払われるService Feeを除く
2. Charter事業からの利益は、長期契約に基づく持分法投資利益、サービスフィーおよびSPC宛て劣後ローンの利息収入で構成

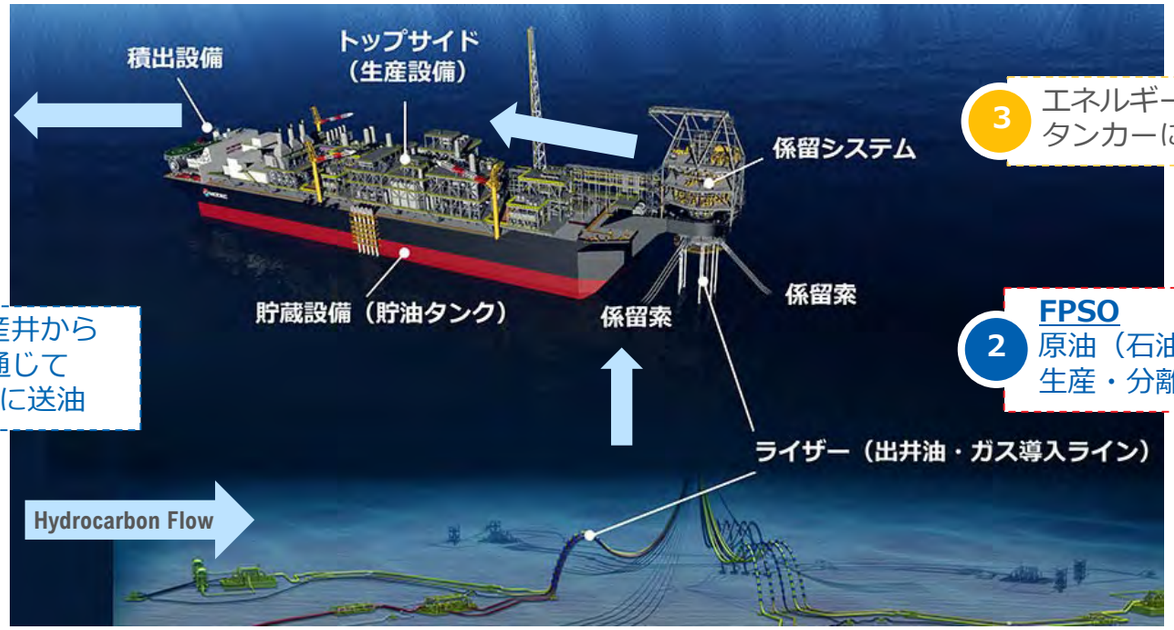
ビジネスモデル
FPSOの建造と操業

FPSOとは	▪ FPSOは海洋石油・ガス生産開発の中流領域で利用される、海底油田から原油・ガスを生産・貯蔵する設備 ▪ 既存タンカー又は新造船体を利用して建造
建造費用	▪ US$1,000~3,000百万、建造期間は3~5年
契約形態	▪ 当社はFPSOを保有するSPCの株主（主に25~35%程度）として、エネルギー会社にFPSOをCharter ▪ パートナーとのSPC共同保有による、投資先案件の事業リスクの分担・資本構成の最適化 ▪ エネルギー会社と締結した契約に基づき、建造後に通常10~25年のCharterサービスをSPCが提供。エネルギー会社はFPSO投入時点で既に莫大な資金を投じており、原油生産により収益を上げ投資を回収 ▪ エネルギー会社がFPSOを買い取り、当社グループ会社にてエネルギー会社が保有するFPSOのO&M契約を請け負う案件もある

1 所掌外 **探鉱・開発** 鉱区権益保有企業（エネルギー会社）

2 **当社所掌** **生産・貯蔵** **FPSOオーナー/オペレーター**

3 所掌外 **積出・輸送** 鉱区権益保有企業（エネルギー会社）



3 エネルギー会社手配のシャトルタンカーに積出

1 海底下の生産井からライザーを通じて原油をFPSOに送油

2 **FPSO**
原油（石油・ガス・水の混合物）
生産・分離・貯蔵

出所:
1. FPSOの図：当社ウェブサイト

ビジネスモデル

生産段階におけるFPSOの重要性

探鉱・開発
探査・開発計画策定
- 権益獲得
- 探査・調査
- 試掘

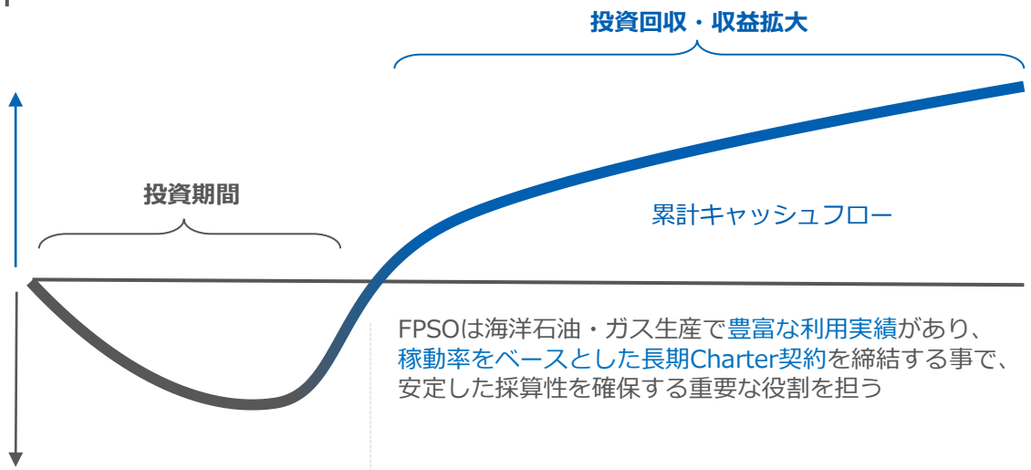
商業評価

生産
陸上・洋上での生産
- 生産設備の建造 (EPCI)
- 生産及び操業 (Charter & O&M)

- 陸上
  - 固定式
- 海洋
  - Spar
  - TLP
  - Semi-Sub
  - FPSO/FSO

精製・販売
石油の製品化と販売
- 輸送
- 貯油・精製
- 販売

当社事業領域



FPSOは海洋石油・ガス生産で豊富な利用実績があり、稼動率をベースとした長期Charter契約を締結する事で、安定した採算性を確保する重要な役割を担う

探鉱・試掘

ドリルシップ & セミサブリグ

生産

中流領域 / FPSO

当社事業領域

海洋石油・ガス生産事業での豊富な利用実績

- ブラジルの超大水深領域にあるプレソルト層のような物理的に海底での生産設備の設置が難しい海域に投入
- 45年以上の海洋石油・ガス生産開発案件での利用実績がある “Proven” 且つ業界標準テクノロジー

ブラジルのプレソルト層での収益化

- 沖合且つ大水深という開発条件から、略唯一の現実的生産手段
- エネルギー会社はFPSO投入段階で既に莫大な資金を投じており、FPSOでの生産による収益化が重要

高いUptimeと安定した事業環境

- ブラジルにおいてFPSOは海洋石油・ガス生産事業の収益化において重要であり、Charter契約が途中解除されたことはない

開発計画における低リスク領域

- ドリルシップが利用される探鉱・開発段階（投資期間）と比較して、FPSOはその後の安定生産（投下資本回収期間）の為に利用される設備であり、事業リスクが低い
- FPSO操業開始までにエネルギー会社は総事業コストの過半を投じており、FPSOの安定生産は投下資本回収上極めて重要

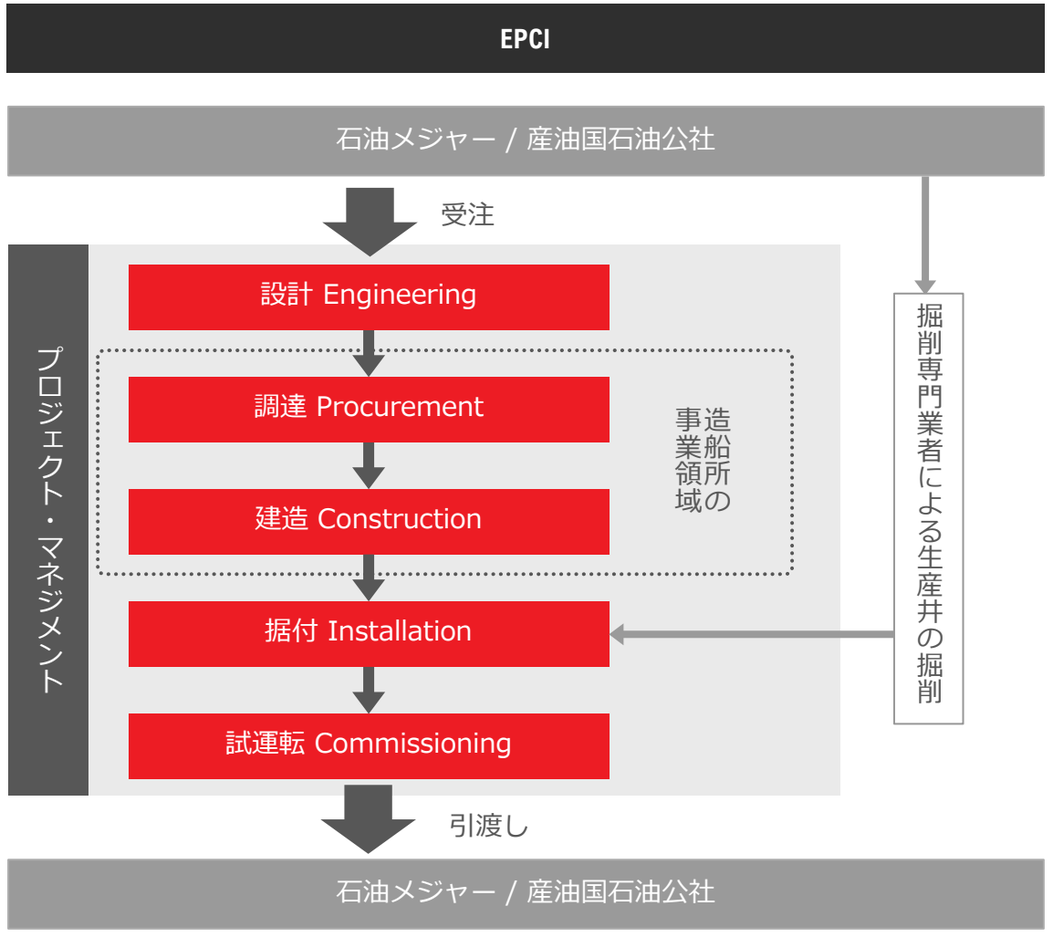
信頼性の高い生産設備

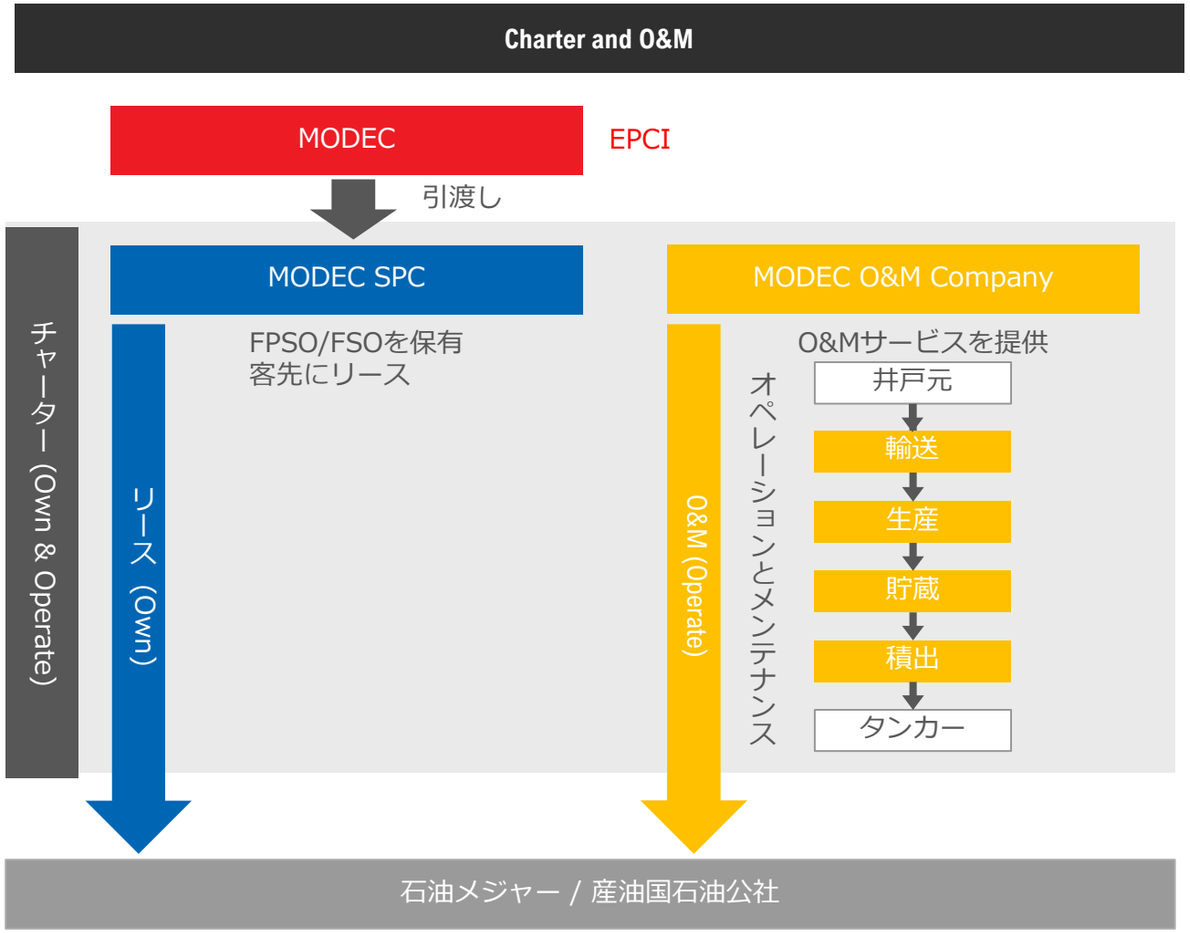
- FPSOは生産開始後、退役までその鉱区で生産することが前提
- 生産開始後に代替生産設備を調達するには莫大な費用と時間を要するため、収益化の観点からも投入したFPSOの安定稼働が重要視

ビジネスモデル

EPCI・O&M・Charterの各種サービスを展開

- 当社は、石油・ガス開発会社に対し、FPSOの設計から資材調達、建造、据付、試運転までを一括して提供。さまざまなベンダーや造船所の管理を含む、プロジェクトマネジメント業務を行う
- FPSO完工後のOperational Phaseでは、Charterサービス（リース）やO&Mサービス（操業やメンテナンス）を提供





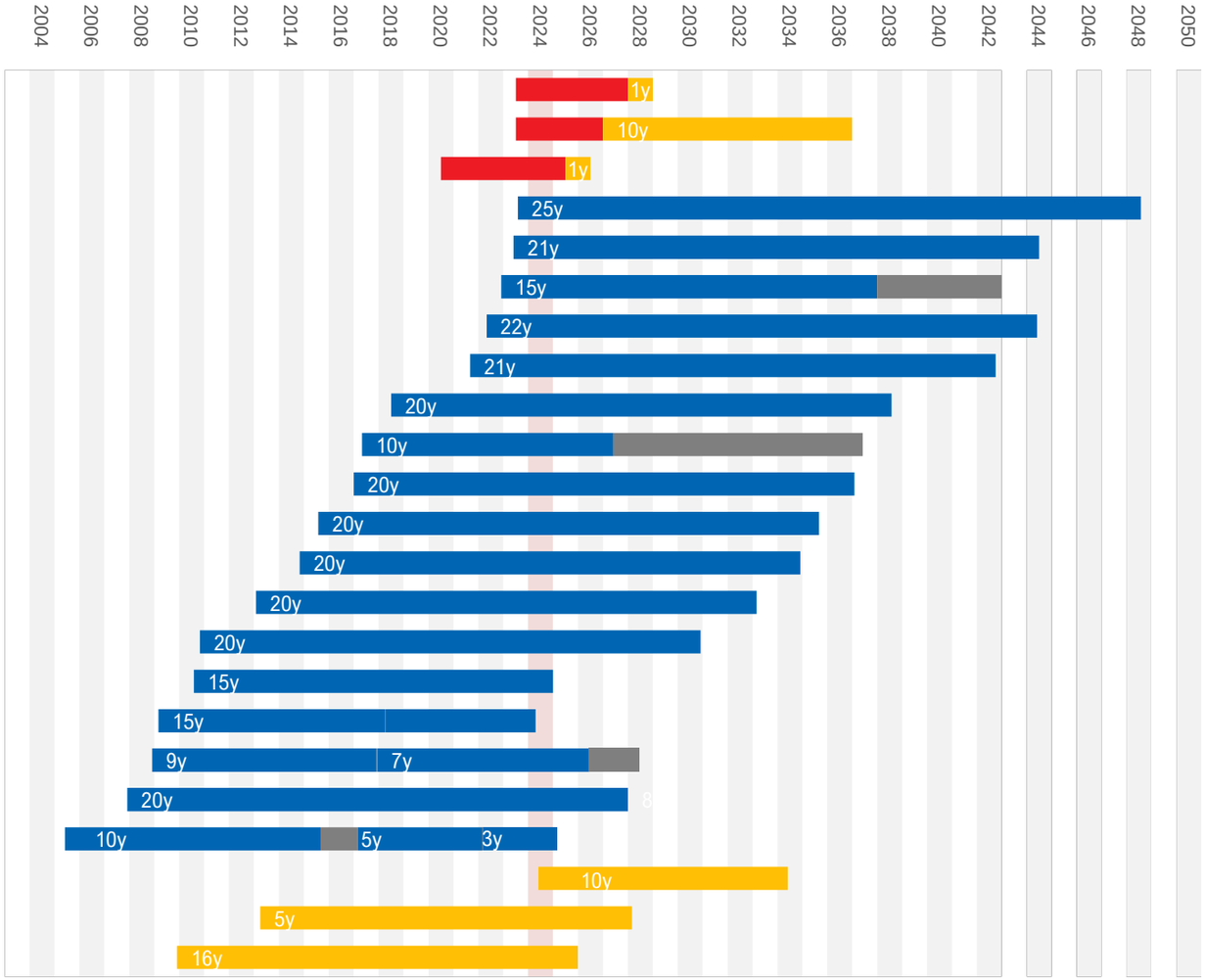
- EPCIの各年度の売上収益（会計上）は長期契約（3～5年）に基づき、当該各年度の建造進捗率に応じて認識（工事進行基準を適用）。建造工事代金（キャッシュフロー）は契約上のマイルストーンや月毎のスケジュールに基づいて支払われる
- EPCI契約は固定価格のターンキー契約。コストの変動リスクは契約規定および適切な保証を伴う下請け契約（固定価格）を通じて軽減

- Charter収入はキャンセル不可の長期契約（10～25年）に基づき、FPSOの稼働率に応じた米ドル建ての固定レート（石油生産量や油価とは連動せず）で受領
- O&M収入はCharter契約と同様に、キャンセル不可の長期契約に基づいた固定のデイレートで受領

ビジネスモデル

EPCI / Charter / O&M プロジェクト一覧

#	Current Stage	(%)[1]	Ship Name	Offtakers	Asset Location	Charter Start Date	Charter End Date
1	EPCI	-	FPSO Raia	Equinor		-	-
2	EPCI	-	FPSO Uaru	ExxonMobil		-	-
3	EPCI	-	FPSO Bacalhau	Equinor		-	-
1	Charter	32.5%	FPSO Anita Garibaldi MV33	Petrobras		2023	2048
2	Charter	35.0%	FPSO Almirante Barroso MV32	Petrobras		2023	2044
3	Charter	35.0%	FPSO MIAMTE MV34	Eni Consortium		2022	2037
4	Charter	29.4%	FPSO Guanabara MV31	Petrobras Consortium		2022	2044
5	Charter	29.4%	FPSO Carioca MV30	Petrobras Consortium		2021	2042
6	Charter	29.4%	FPSO Cidade de Campos dos Goytacazes MV29	Petrobras Consortium		2018	2038
7	Charter	25.0%	FPSO Prof. John Evans Atta Mills MV25	Tullow Consortium		2017	2027
8	Charter	29.4%	FPSO Cidade de Caraguatatuba MV27	Total Consortium		2016	2036
9	Charter	29.4%	FPSO Cidade de Itaguai MV26	Petrobras Consortium		2015	2035
10	Charter	29.4%	FPSO Cidade de Mangaratiba MV24	Petrobras Consortium		2014	2034
11	Charter	34.0%	FPSO Cidade de Sao Paulo MV23	Petrobras Consortium		2013	2033
12	Charter	42.5%	FPSO Cidade de Angra dos Reis MV22 - 5年延長	Petrobras Consortium		2010	2030
13	Charter	70.0%	FPSO Cidade de Santos MV20 – 撤収作業中	Petrobras		2010	-
14	Charter	67.0%	FPSO Cidade de Niteroi MV18 – 撤収作業中	Petrobras		2009	-
15	Charter	65.0%	FSO Rang Dong MV17 - 1年延長	JVPC Consortium		2008	2026
16	Charter	40.6%	FSO Cidade de Macae MV15	Petrobras		2007	2027
17	Charter	50.0%	FPSO Baobab MV10 – Charter終了、売却済 (Feb'25)	CNR Consortium		2005	2025
1	O&M	-	FPSO Sangomar – O&M開始 (Jun'24)	Woodside		-	-
2	O&M	-	FPSO Raroa	OMV		-	-
3	O&M	-	FPSO Pyrenees Venture	Woodside		-	-
-	O&M	-	FPSO Fluminense - O&M終了 (Jun'24)	Shell		-	-
-	Charter	42.0%	FSO Rong Doi MV12 – Charter終了(Nov '24)	KNOC Consortium		2007	2024



2024年12月末時点

注記：
1. (%) 当社のグループ会社の出資比率（持分法適用会社）

- EPC(I) 期間
- Charter 確定期間
- Charter オプション期間
- O&M 期間

ハイライト

中流事業領域のリーディングカンパニー

長期契約且つ高い安定性・予測可能性のあるビジネスモデル

- 当社の売上・キャッシュフローの100%は、業界を代表するエネルギー会社との**長期契約**（3～5年のEPCI契約及び20年超のCharter・O&M契約）に基づいており、一般的な景気サイクルやエネルギー市況のボラティリティから守られている

安定した事業環境・領域

- 原油価格が軟化していても、主要なエネルギー会社は世界中で深海域油田の開発を継続。大水深と超大水深油田の開発コストの**損益分岐点は低く**、1バレル当たり40米ドル以下でも採算を確保できるため、今後も多くの新規案件が見込まれる

業界でのリーディングカンパニー

- 当社はEPCI、O&M、Charterサービスを包括的に提供することができ、競合となる企業は世界的にも限定的。現在は当社とSBMの2社がリーディングカンパニーとしてFPSO業界を牽引

豊富な建造実績

- 当社は52案件の建造工事を無事に完工しており、豊富な建造実績を誇る（完工率100%）

高水準の受注残高

- 現在3隻のFPSOを建造中。当社が得意とし、ターゲット市場である超大水深油田の開発は活発であり、着実に案件を受注できていることから、 EPCI・O&M・Charterの何れの事業も高水準の受注残高を維持

豊富なCharter案件と分散投資

- 現在17隻のFPSO/FSOが世界中で各エネルギー会社にCharter中（17隻に加えてO&Mのみ提供する案件が3隻）

長期契約に基づくCharter事業からの安定した利益

- Charter契約は稼働率を基にした契約であり、Charter収入は長期契約の特性から安定的かつ予測の立てやすいものとなっている。Charter事業からの年間利益は200百万米ドルを超える。近年の利益の増加は5隻の新しいFPSO（MV30～MV34）が加わったことによる（2021年～2023年の3年間）

財務状況の改善

- 当社の財務状況は（i）コロナの影響を受けた案件の完工と新規EPCI案件の開始（ii）ブラジル旧船の稼働率改善、コスト・マネジメントの改善及び新船稼働開始による採算改善（iii）新船のCharter開始による利益向上、といった要因から改善。格付情報（Fitch）は、**BBB-/Positive**

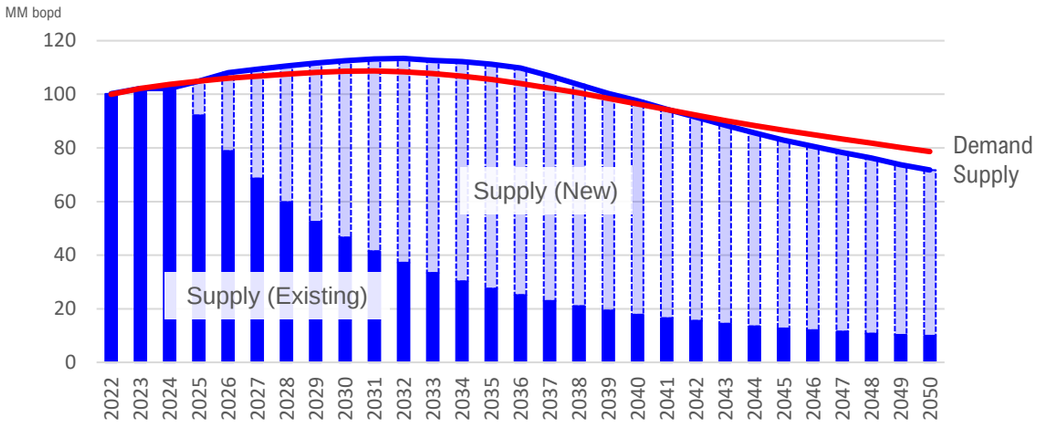
3. 事業環境

事業環境

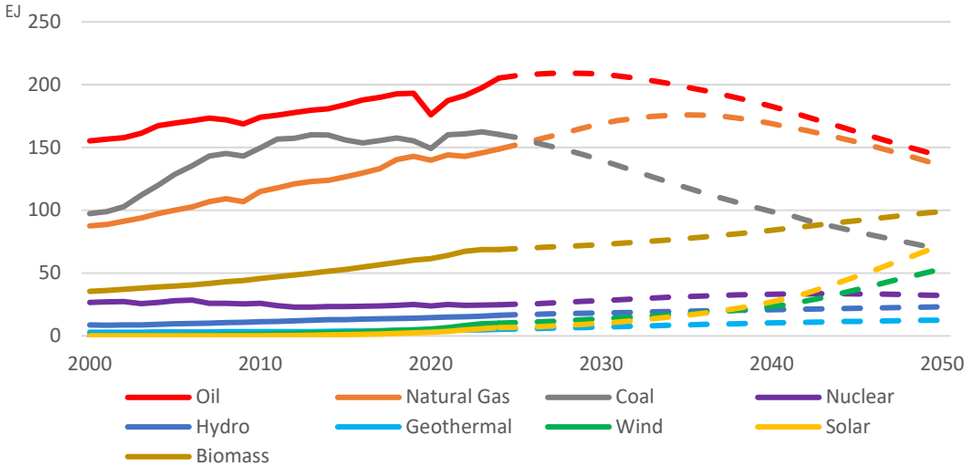
大水深・超大水深油田のコスト競争力の高さを背景とした良好な事業環境

- 代替エネルギーの供給は増加する見込みながら、石油は今後も主要なエネルギー源と予想
- 当社のターゲット市場は超大水深と大水深油田。コスト競争力が高く、原油価格が軟化していても採算が見込まれる
- 中南米（ブラジル、ガイアナ）と西アフリカは、大水深および超大水深プロジェクトの重要な地域

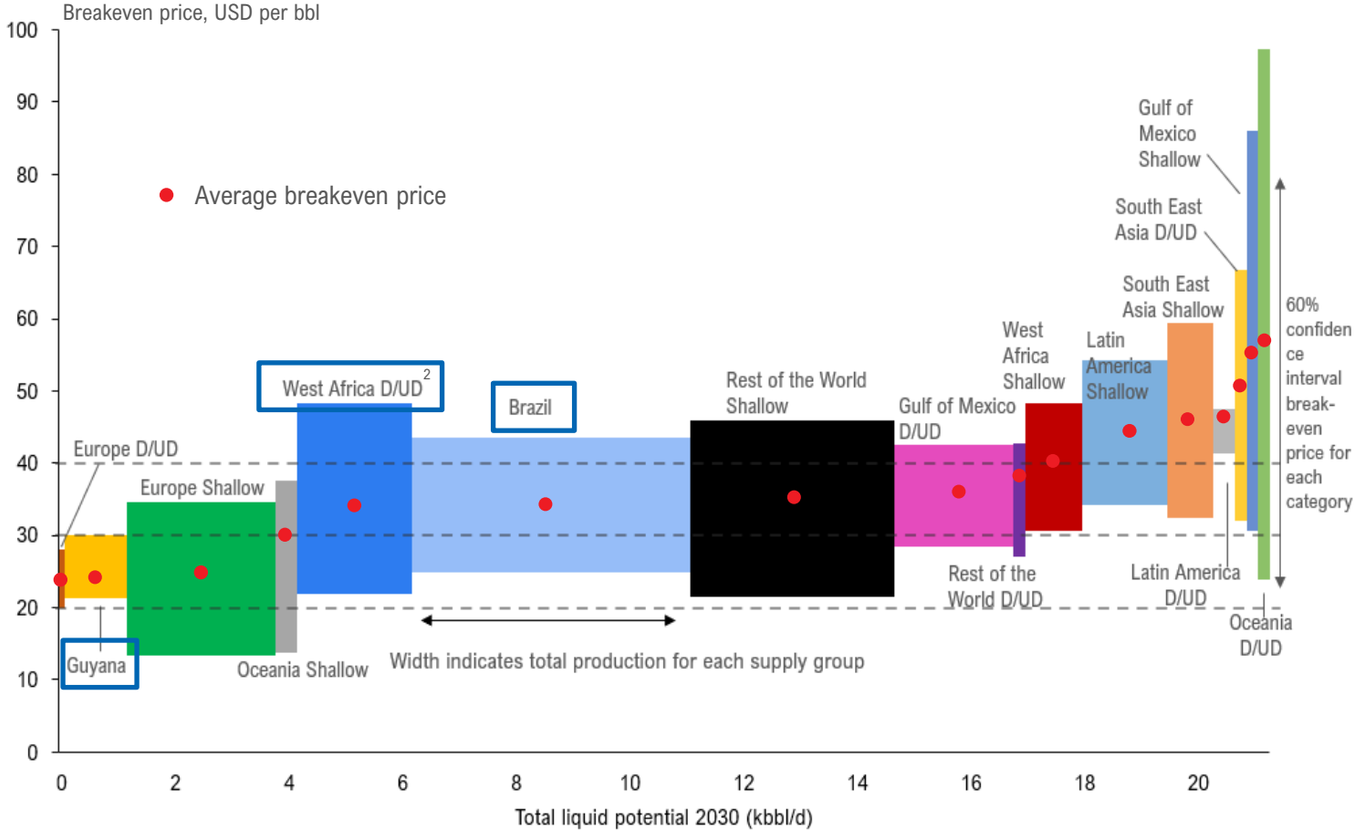
石油の需要と供給[1]



エネルギーの種類別供給量[1]



原油産出コスト (オフショアの油田、除く中東地域）[1]

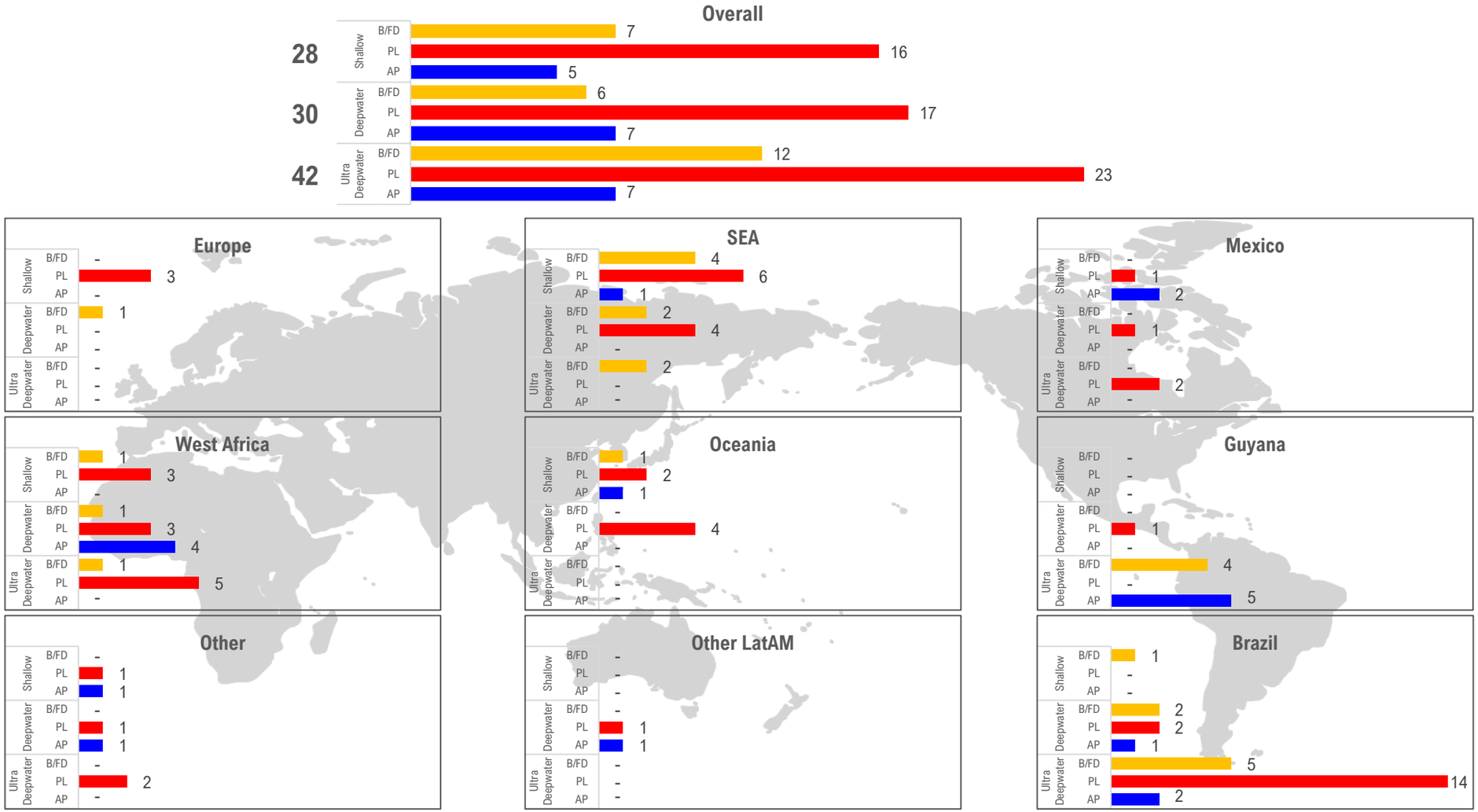


1. 出所: Rystad Energy December 2024
2. D/UD: Deepwater（大水深）/Ultra Deepwater（超大水深）

事業環境

豊富なグローバルパイプライン

- FPSOのプロジェクト数は引き続き豊富にあり、特に中南米、アフリカ、東南アジアに多数存在
- 当社は各地域で事業展開を可能にする豊富な実績を持つ



出所：EMA-Floating Production Report Data Q4 2024

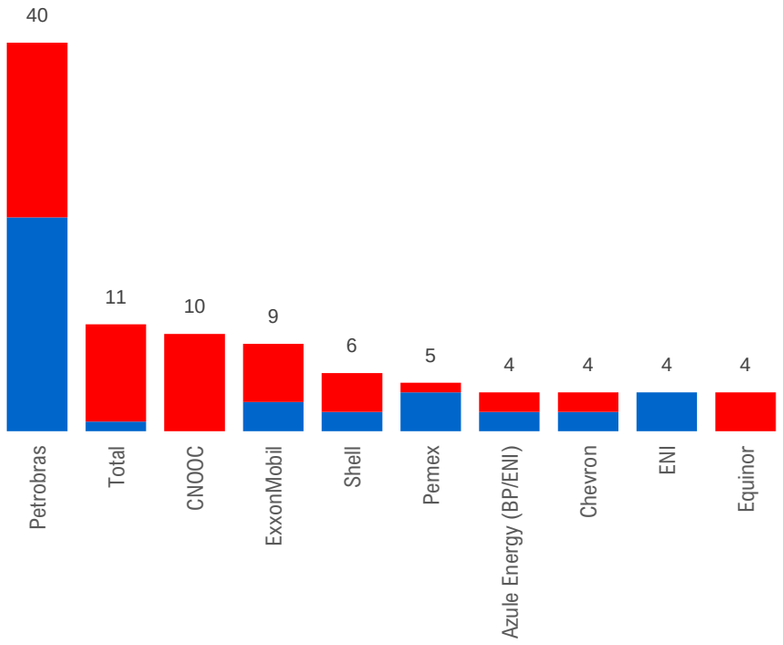
- **Bidding & Final Design (B/FD) - 入札・最終設計：**開発計画策定し、入札又はFEEDを開始
- **Planning (PL) - 計画段階：**開発計画の実現可能性等を評価。入札準備時点ではFPSO概算費用を見積
- **Appraisal (AP) – 評価段階：**試掘後に技術的・経済的観点から可採埋蔵量と生産能力を評価。採算が見込まれる場合はFPSOを利用した開発初期計画を策定

事業環境

FPSOリース市場でのリーディングカンパニー

エネルギー会社の自社保有FPSO隻数とリース隻数の比較

- すべてのFPSOユーザーは、探査および開発段階での大規模な初期投資を賄うことができる大手グローバルエネルギー会社
- プレソルト層のような沖合・超大深水の案件もあり、ブラジルが世界最大のFPSO市場
- FPSOは安定した生産実績が多い為、多くの案件で利用

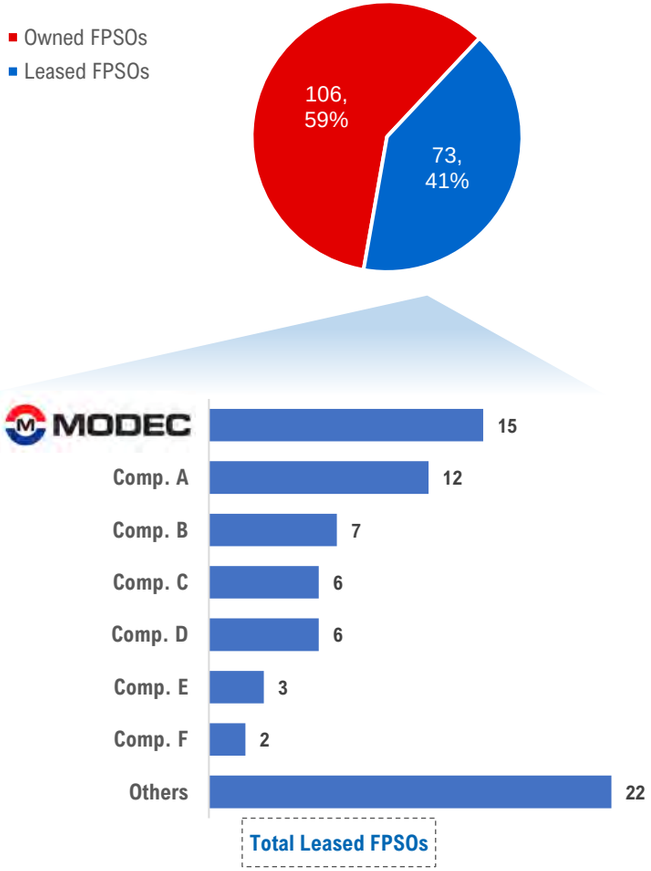


	Petrobras	Total	CNOOC	ExxonMobil	Shell	Pemex	Azule Energy (BP/ENI)	Chevron	ENI	Equinor
Owned	18	10	10	6	4	1	2	2	0	4
Leased	22	1	0	3	2	4	2	2	4	0

出所:
EMA Floating Production Systems Quarterly Report January 2025

FPSOのリース市場

- FPSOをリースする場合、エネルギー会社は自社でFPSOを保有・管理するためのリソースが不要な為、自社保有に替わる魅力的なソリューション
- 当社は世界でも数少ないEPCI・O&M・Charterのトータルサービスを提供出来る企業であり、リース市場では21%のシェアを誇る

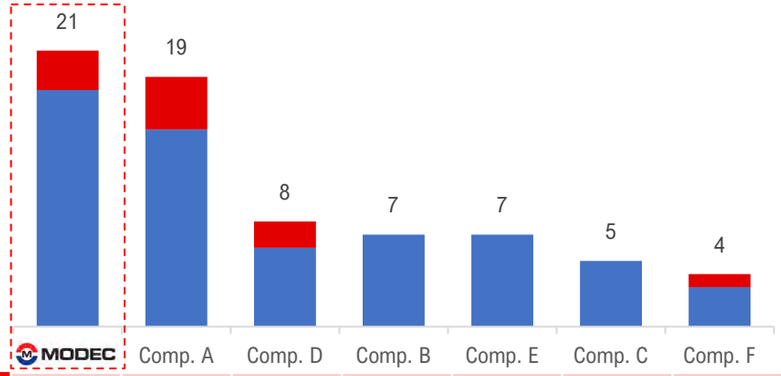


事業環境

FPSO市場におけるリーディングプレイヤー

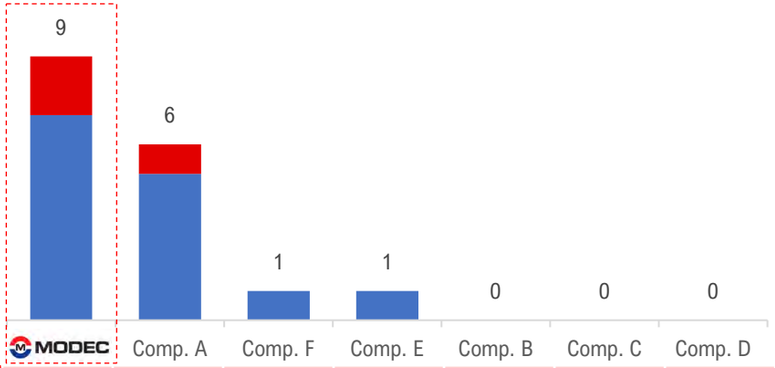
当社は総隻数および超大水深 対応隻数でFPSO業界第1位

総隻数[1,2]



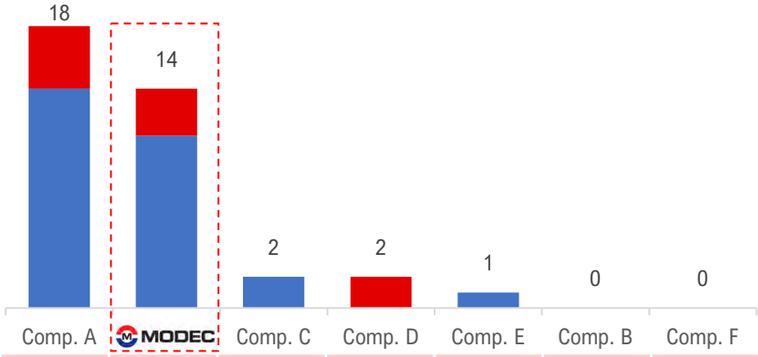
	MODEC	Comp. A	Comp. D	Comp. B	Comp. E	Comp. C	Comp. F
Construction	3	4	2	0	0	0	1
Operation	18	15	6	7	7	5	3

超大水深 対応隻数（水深2,000m超）



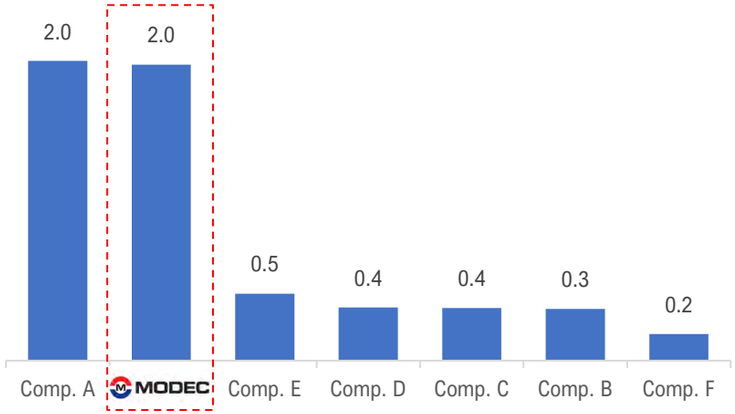
	MODEC	Comp. A	Comp. F	Comp. E	Comp. B	Comp. C	Comp. D
Construction	2	1	0	0	0	0	0
Operation	7	5	1	1	0	0	0

大量生産能力 保有隻数 (生産能力:100,000 bopd超)



	Comp. A	MODEC	Comp. C	Comp. D	Comp. E	Comp. B	Comp. F
Construction	4	3	0	2	0	0	0
Operation	14	11	2	0	1	0	0

石油処理能力 (百万bopd)



出所: MODEC Research

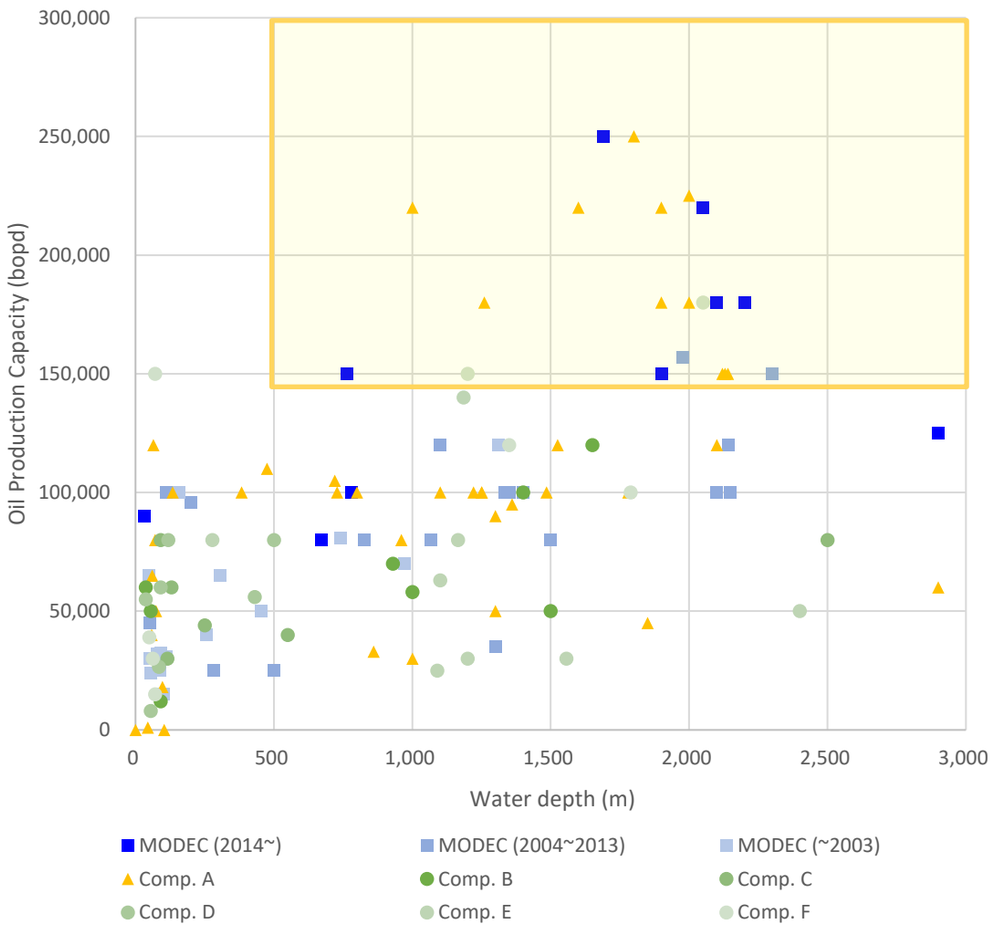
Notes:
1. FPSOsを対象に集計
2. Leased FPSO Market における総隻数上位7社を抽出 (EMA Floating Production Systems Quarterly Report January 2025)

事業環境

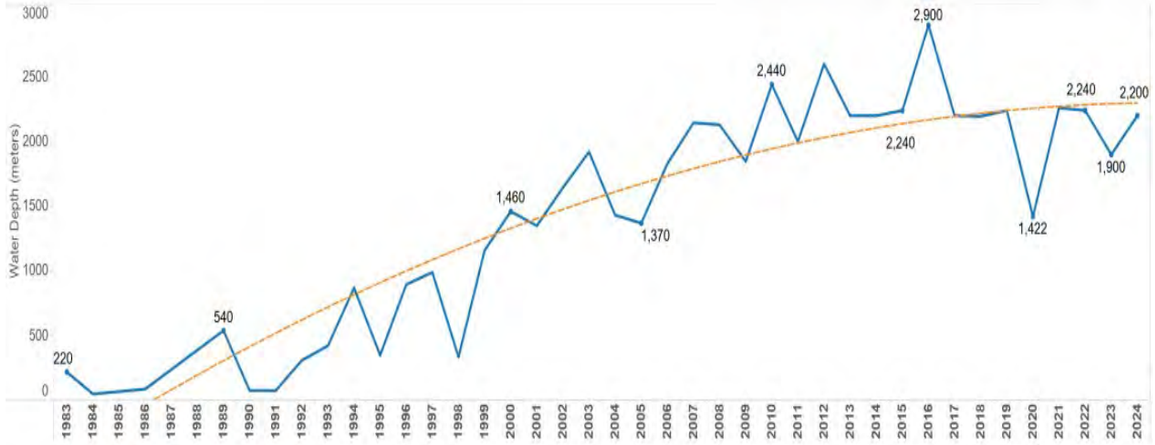
深海油田案件の当社ポジション

業界はより深海の油田開発に向かっており、その開発で十分な実績を持つ企業は限定されている

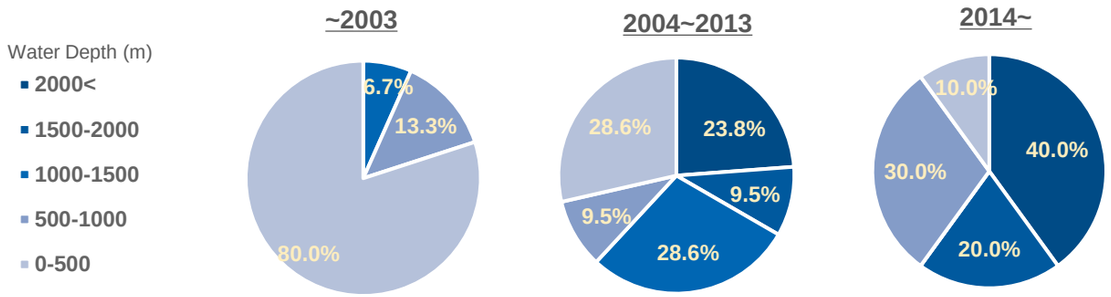
総隻数 (石油生産量 / 水深)[1]



各年度に設置された浮体式生産設備の最大水深[2]



水深別の当社案件比率



出所:
1. MODEC Research
2. EMA-Floating Production Report Data Q4 2024

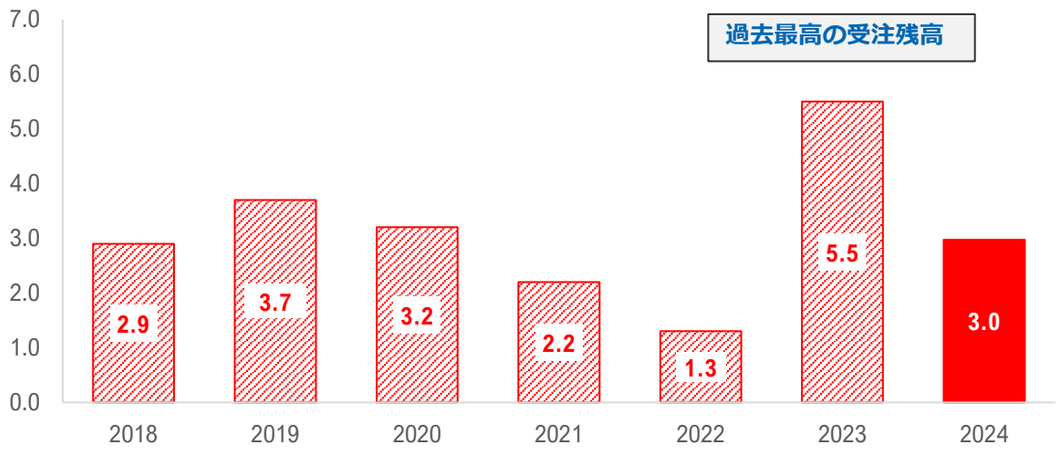
4. 決算概要

決算概要

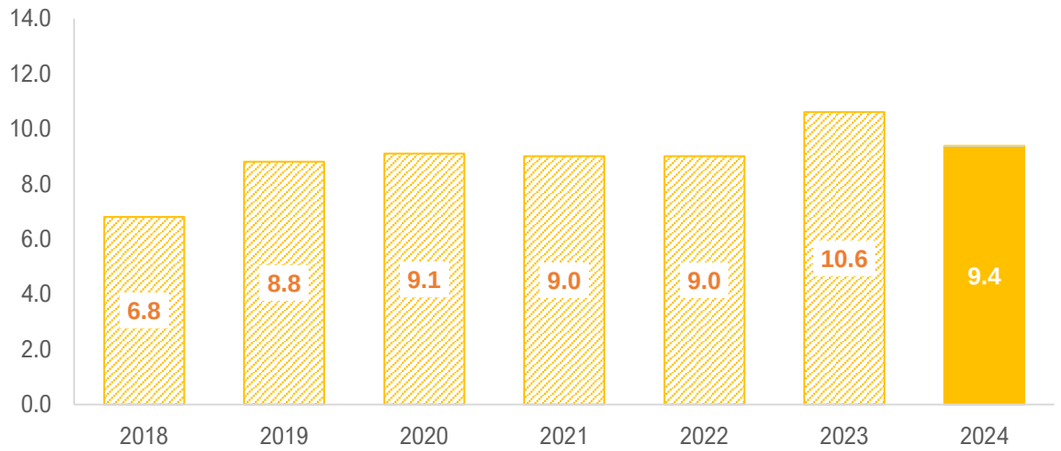
EPCI事業、O＆M事業での高水準の受注残高

- EPCIの受注残高は、2023年に受注した2件の大型建造工事案件（UaruおよびRaia FPSO）により大幅に増加
- 2024年は、既存大型建造工事案件が順調に進捗するとともに、当社はGato do Matoプロジェクトにおいて Shell社からシングルソースでのFEEDを受注
- O&Mの受注残高も長期契約により高水準を維持

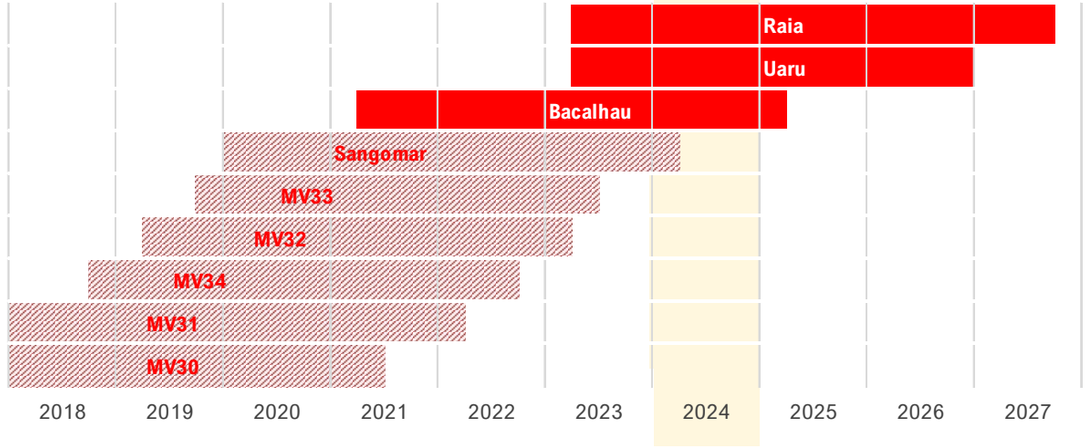
EPCI 事業受注残高 (US$ Bn)



O&M 事業受注残高 (US$ Bn)



建造期間



EPCI案件	顧客	売上収益 2024	建造進捗率 (POC[1])	受注時期 (FID[2])	生産開始 (予定)
Uaru	ExxonMobil	$ 1,380MM	70%	2023	2026
Raia	Equinor	$ 1,100MM	50%	2023	2027
Bacalhau	Equinor	$ 270MM	96%	2020	2025

＜FEED案件＞

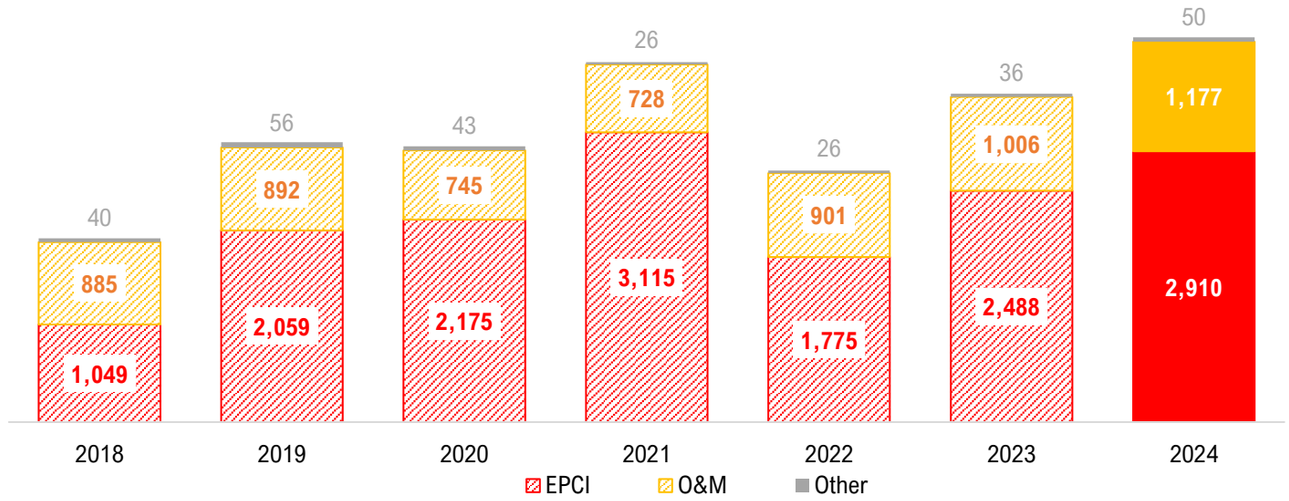
- Shell Gato do Matoプロジェクトについては、EPCI及びO&M契約の受注に向け、シングルソースでのFEEDを実施中

注記：
1. POC: Percentage of Completion
2. FID: Final Investment Decision

決算概要

EPCI/O&M事業が大幅改善[1]

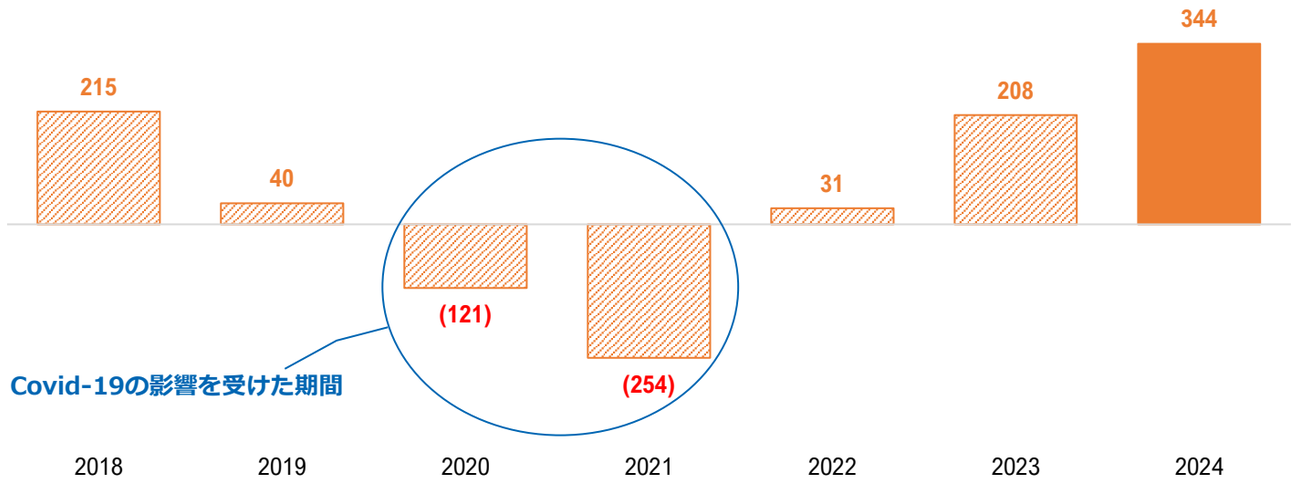
売上収益[2] (US$ MM)



2024年は**過去最高の売上収益**を計上

- 2022年は、複数のEPCI案件が工期終盤フェーズへ移行、新規案件の受注もなかったたため売上収益が低下
- 2023年および2024年は、新規案件の受注（Uaru、Raia）および順調な建造工事の進捗により売上収益が増加

売上総利益 (US$ MM)



2024年は**過去最高益**を計上

2023年以降の利益急回復の要因は以下のとおり：

- 2023年までに、コロナ禍の影響を大きく受けた旧EPCI案件の完工
- 新規受注したFPSO案件での建造工事の順調な進捗
- これまでに実施した大規模修繕効果等より既存船の損益改善、及び、新規O&Mサービス開始による収益上積

注記：
1. 2020年迄はJGAAP、以降はIFRSに準拠
2. EPCIの各年度の売上は当該年度の建造進捗率に応じて認識。O&Mの各年度の売上は既存のO&M契約に基づき顧客から支払われた金額を対象
3. 米ドル/円 為替レート（当社財務諸表参照）：2017 (113.00), 2018 (111.02), 2019 (109.54), 2020 (103.50)

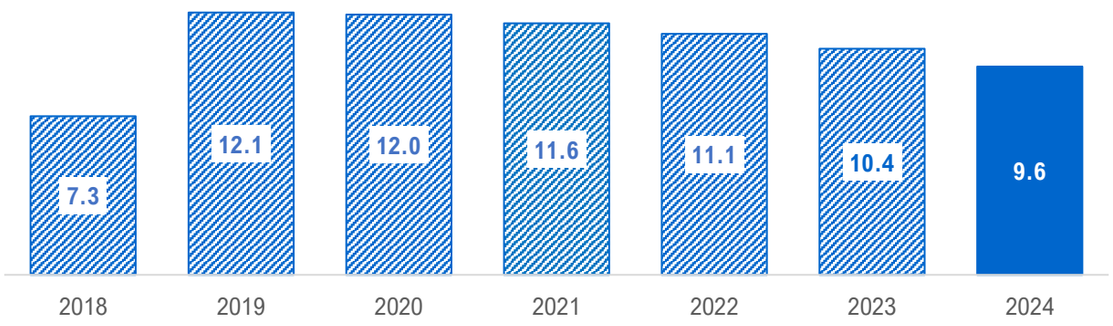
決算概要

稼働率をベースとした長期契約による安定したチャーター収益

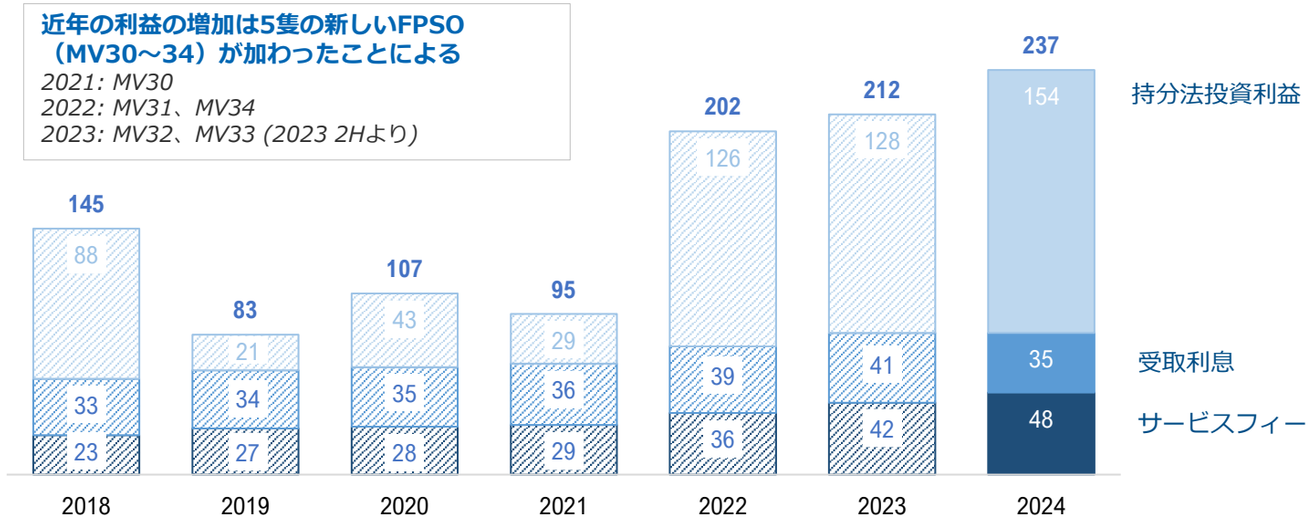
平均12.6年・累計159年の残存契約期間

- 当社のSPC（少数持分）は連結対象外のため、SPCの損益はPL上では持分法投資利益として認識
- SPCへの株主資本は通常、各SPCスポンサーの出資および劣後ローンの組み合わせで資金が拠出。劣後ローンに対しては固定の利息収入をSPCから受領
- また、各SPCスポンサーは持分比率に応じて、SPCから固定のサービスフィー（SPC管理手数料）も受領

Charter事業の受注残高 (US$ Bn)



Charter事業からの利益 (US$ MM)



Charter契約 – 主要項目

契約主体	▪ 当社が出資するSPCがエネルギー会社とCharter契約を締結 ▪ 通常Charter契約締結と同時にSPCが当社とO&M契約を締結
契約期間	▪ 10-25年間の契約期間。延長オプションあり
Charter収入	▪ FPSOの稼働率を基にした米ドル建ての固定レート。**石油生産量や油価とは連動せず**
契約解除権	▪ Charter契約は解約不可の建付け ▪ 早期解約する場合、SPCは解約手数料を受領
環境賠償責任	▪ 故意・重過失でない限り、SPCの一事案当たりの責任上限額は10百万米ドル程度で設定 ▪ 不測の事態に備えてSPCはProtection & Indemnity 保険を手配

フリートUptime[1]

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
97.7%	98.7%	96.4%	97.9%	98.5%	97.6%	98.7%

注記：
1. 操業中FPSOの稼働率の中央値

決算概要

損益計算書[1]

(US$ MM)	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2023 vs 2024
売上収益								
EPCI	1,049	2,059	2,175	3,115	1,775	2,488	2,910	+ 421
O&M	885	892	745	728	901	1,006	1,177	+ 171
Service Fee	23	27	28	29	36	42	48	+ 5
Others	40	56	43	26	26	36	50	+ 18
売上収益合計	1,998	3,036	2,994	3,899	2,739	3,574	4,186	+ 611
売上総利益（除くService Fee）	215	40	(121)	(254)	31	208	344	+ 136
Charter事業からの利益								
Service Fee	23	27	28	29	36	42	48	+ 5
劣後ローンの利息収入	33	34	35	36	39	41	35	- 6
持分法投資利益	88	21	43	29	126	128	154	+ 25
Charter事業利益合計	145	83	107	95	202	212	237	+ 24
その他の収益/その他の費用	0	(151)	17	24	33	2	0	- 1
販売費及び一般管理費	(104)	(112)	(116)	(145)	(153)	(188)	(223)	- 35
金融収益[2]	22	20	6	18	24	48	32	- 28
金融費用								
支払利息[3]	(8)	(7)	(5)	(3)	(16)	(27)	(33)	- 6
Other Expense	(10)	(14)	0	(78)	(67)	(41)	(49)	- 7
金融費用合計	(18)	(22)	(6)	(82)	(84)	(69)	(83)	- 14
税引前利益	**259**	**(142)**	**(113)**	**(344)**	**54**	**214**	**307**	**+ 93**
法人所得税費用	(56)	(19)	(11)	(15)	(13)	(88)	(44)	+ 44
非支配持分	(5)	(4)	(1)	(4)	(3)	(29)	(42)	- 13
親会社の所有者に帰属する当期利益	**197**	**(166)**	**(126)**	**(363)**	**37**	**96**	**220**	**+ 123**

注記：
1. 2020年迄はJGAAP、以降はIFRSに準拠
2. 劣後ローンの利息収入を除く
3. 借入金利息

決算概要

EBITDA・主要財務指標[1,2]

(US$ MM)	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2023 vs 2024
売上総利益（除くService Fee)	215	40	(121)	(254)	31	208	344	+ 136
Charter事業からの利益								
Service Fee	23	27	28	29	36	42	48	+ 5
劣後ローンの利息収入	33	34	35	36	39	41	35	- 6
持分法投資利益	88	21	43	29	126	128	154	+ 25
Charter事業利益合計	145	83	107	95	202	212	237	+ 24
販売費及び一般管理費	(104)	(112)	(116)	(145)	(153)	(188)	(223)	- 35
減価償却費 (CF)	20	31	33	41	39	40	38	- 1
リース債務の返済による支払 (CF)	0	(12)	(15)	(22)	(21)	(25)	(26)	+ 0
非支配持分	(5)	(4)	(1)	(4)	(3)	(29)	(42)	- 13
Adj. EBITDA before Unusual Items	**271**	**26**	**(114)**	**(291)**	**95**	**218**	**328**	**+ 109**
Add Back: Unusual Items（一過性コスト）	0	65	206	366	106	87	0	- 87
Adj. EBITDA after Unusual Items	**271**	**91**	**93**	**76**	**202**	**306**	**328**	**+ 21**

主要財務データ (US$ MM)								
現金及び現金同等物 (Cash & Deposits)	461	478	638	810	492	1,013	1,253	239
有利子負債 (Total Debt)	279	226	130	426	393	570	514	-56
ﾈｯﾄ･ﾃﾞｯﾄ（Net Debt）	(181)	(252)	(508)	(383)	(99)	(443)	(738)	-295
株主資本（Equity）	1,375	1,111	883	532	811	992	1,180	187
ｷｬﾋﾟﾀﾘｾﾞｰｼｮﾝ（Capitalization）	1,654	1,337	1,013	959	1,204	1,563	1,694	131

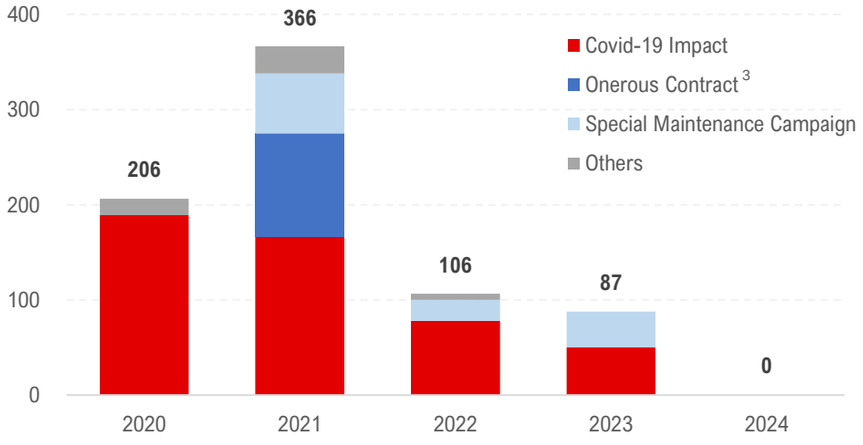
主要財務指標								
Debt / Adj. EBITDA before Unusual Items	1.0 x	8.6 x	(1.1 x)	(1.5 x)	4.1 x	2.6 x	1.6 x	-1.0 x
Debt / Adj. EBITDA after Unusual Items	1.0 x	2.5 x	1.4 x	5.6 x	1.9 x	1.9 x	1.6 x	-0.3 x
Debt / Capitalization	17%	17%	13%	44%	33%	37%	30%	-6%
Debt / Equity	20%	20%	15%	80%	48%	57%	44%	-14%

注記：
1. 2020年迄はJGAAP、以降はIFRSに準拠
2. 非支配持分: SOFEC (Mitsui E&S との合弁会社 2024年迄), OFS (TOYOとの合弁会社 2022年以降)
Adj. EBITDA before Unusual Items: コロナ影響・Special Maintenance Campaignといった一過性コスト調整前
有利子負債: 借入金（流動負債）及び社債及び借入金（非流動負債）の合計
ﾈｯﾄ･ﾃﾞｯﾄ: 有利子負債から現金及び現金同等物を差し引いた額
ｷｬﾋﾟﾀﾘｾﾞｰｼｮﾝ: 有利子負債及び株主資本の総計
3. Onerous contract 損失引当金： O&Mにおける将来損失額とSPCの将来営業CF（当社持分）を比較し、損失が上回る場合は、将来損失額と将来営業CFの差額を損失として引き当てる会計処理（3隻のブラジル向けの古いFPSOが対象）

ハイライト

- EBITDAは力強い伸びを示し、コロナ渦前の2018年に計上した過去最高を更新
- 3つのサービス・セグメント全てで収益力強化、且つ、顧客・収益の多様化も進展
- コロナ禍の困難な期間中も、健全な財務内容維持
- 財務指標は大幅に改善、Debt/Adj. EBITDA倍率も2.0xを下回る
- 資金調達多様化を推進、コロナ禍の困難な時期においても資金需要に的確に対処

一過性コスト (US$ MM)



決算概要

貸借対照表[1]

Balance sheet (US$ MM)	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2023 vs 2024
現金及び現金同等物	461	478	638	810	492	1,013	1,253	+ 239
営業債権及びその他の債権	856	1,491	1,205	379	478	592	752	+ 160
契約資産	-	-	-	704	257	185	195	+ 10
短期貸付金	387	76	-	14	-	27	6	- 21
持分法で会計処理されている投資	643	659	652	739	1,114	1,374	1,587	+ 214
長期貸付金	332	345	367	398	365	348	307	- 41
その他の資産	411	447	590	381	430	346	393	+ 47
資産合計	3,092	3,498	3,454	3,425	3,136	3,887	4,496	+ 609
営業債務及びその他の債務	879	1,377	1,462	1,356	921	1,189	1,326	+ 138
契約負債	89	122	313	405	499	590	877	+ 287
社債及び借入金	279	226	130	426	393	570	514	- 56
その他の負債	358	628	630	683	482	503	579	+ 77
負債合計	1,608	2,353	2,536	2,870	2,295	2,852	3,298	+ 446
非支配持分	109	32	34	22	29	42	18	- 24
資本金・資本剰余金	549	542	574	562	562	377	359	- 18
利益剰余金	842	656	543	85	131	522	722	+ 200
その他の資本の構成要素	(16)	(85)	(232)	(115)	118	94	98	+ 5
資本合計	1,375	1,111	883	532	811	992	1,180	+ 188
負債及び資本合計	3,092	3,498	3,454	3,425	3,136	3,887	4,496	+ 609

注記：
1. 2020年迄はJGAAP、以降はIFRSに準拠

5. 業績見通し

業績見通し

2025年12月期 業績予想 / 株主還元

2025年12月期 通期業績予想

- ✓ 売上収益は主にEPCI事業からの収入減により、前年度比減少する見込み（Bacalhauが完工を迎え、Uaruの建造工事が終盤にさしかかる）
- ✓ 利益面は主にEPCI事業からの利益増により、前年度比増加する見込み

	2024年度 実績	2025年度 予想	(US$ MM)
売上収益	4,186	**3,700**	(486)
営業利益	322	**410**	+ 88
税引き前利益	307	**420**	+ 113
親会社の所有者に帰属する当期利益	220	**270**	+ 50

2024年度 期末配当

- ✓ 2024年度の期末配当については、1株当たり30円から50円に増額することを2025年3月に開催予定の定時株主総会に付議予定

前回公表金額
中間配当：30円
期末配当：30円

→

今回公表金額
中間配当： 30円
期末配当： **50円（予定）**

2025年度 配当予想

- ✓ 2025年度の配当については、1株当たり40円増額、120円を予定

2024年度
中間配当：30円 (実績)
期末配当：50円 (予定)

→

2025年度
中間配当： **60円** (予定)
期末配当： **60円** (予定)

業績見通し

中期経営計画 2024-2026 財務KPI

中期経営計画の財務目標の再設定（上方修正）

- ✓ 2024年2月14日に発表した、中期経営計画2024-2026年の最終年度である2026年12月期の財務目標について、下記のとおり再設定
- ✓ (1) 操業中の浮体式石油生産貯蔵積出設備（FPSO）において、これまで実施してきた大規模修繕や損益改善の諸施策の効果により想定以上の採算向上が図れていることや、(2) FPSO建造工事におけるスケジュール及びコストの徹底した管理により損益改善を見込むことを踏まえ、中期経営計画の2026年12月期の財務目標を再設定

（US$ MM）

	FY2023 (実績)	FY2024 (実績)	FY2026 (目標)
純利益(*1)	96	220	**175 → 300**
自己資本利益率 (ROE)	10.7%	20.3%	**12.0% → 20.0%**
PBR	1.1	1.2	**＞1.0**
調整後 EBITDA (*2)	218	328	**300 → 450**

＊ 1 親会社の所有者に帰属する当期利益
＊ 2一過性損益調整前

6. 補足資料

補足資料

EPCI案件

3件の大型FPSOを現在建造中

	FPSO Bacalhau	FPSO Uaru	FPSO Raia
顧客	Equinor	ExxonMobil	Equinor
契約形態	EPCI + Short term O&M (1 year)	EPCI + O&M (10 years)	EPCI + Short term O&M (1 year)
受注時期	2020	2023	2023
生産開始 （予定）	2025	2026	2027
鉱区	Bacalhau	Stabroek	BM-C-33
所在地	Brazil	Guyana	Brazil
水深	2,027 m	1,690 m	2,900 m
貯油能力 生産量	2,000,000 bbls 220,000 bopd 500 mmscfd	2,000,000 bbls 250,000 bopd 540 mmscfd	2,000,000 bbls 125,000 bopd 565 mmscfd
建造進捗率			

沿革

これまでの歩み

1968
- 旧三井海洋開発株式会社の設立

1972
- Houstonオフィス開設

1986
- 当社一基目のFPSOが完工

FPSO Kakap Natuna (Indonesia)

1989
- MODEC (U.S.A.), INC.の設立

1996
- オセアニア向け当社一基目のFPSOが完工

FPSO Whakaaropai (New Zealand)

1998
- オペレーション&メンテナンスサービスの提供を開始、チャーター事業へ本格的に参入
- シンガポールオフィスの開設

FPSO MODEC Venture 1 (Australia/East Timor)

1999
- MODEC International LLC（現MODEC International, Inc.）を設立

2001
Prince TLP (USA - Gulf of Mexico)

一基目のTLPが完工

2003
- 東京証券取引所市場第二部に株式を上場
- ブラジルオフィス開設
- 南米向け当社一基目のFPSOが完工

FPSO Fluminense (Brazil)

2004
- 東京証券取引所市場第一部銘柄に指定

2005
- 西アフリカ向け当社一基目のFPSOが完工

FPSO Baobab Ivoirien MV10 (Ivory Coast)

2006
係留設備専門のSOFEC, Incを子会社化

2007
- ペトロブラス向け当社一基目のFPSOが完工

FPSO Cidade do Rio de Janeiro MV14

FPSO Cidade de Angra dos Reis MV22 (Brazil)

2010
- 世界初のブラジル沖合プレソルト原油商業生産プロジェクト用FPSOが完工、チャーター開始

2015
- 当社10件目のブラジル向け浮体式設備、当初の予定より約5ヶ月早く完工

FPSO Cidade de Itaguai MV26 (Brazil)

- カリーン鉱区向けFSOの建造プロジェクトを受注、北海の石油・ガス生産市場に参入

FSO Ailsa (North Sea)

2019
- 米国144A市場で初めてとなるFPSOのリファイナンスで、MV24が 1.1十億米ドルを調達

2021
- 三井物産とともにShape”をシンガポールに設立
- $225MMの米国私募債を発行

2022
- エクソン向け**Uaru**及び
- エクイノール向け**Raia**の受注

2023
- 三井物産・商船三井に対して111百万米ドル[1]の第三者割当増資[2]

2024
- 株式の売出し完了
- 「監査役設置会社」から「監査等委員会設置会社」に移行

注記:
1. 為替換算レートは2023年4月28日時点ので136.3円/USドル
2. 入金は2023年6月

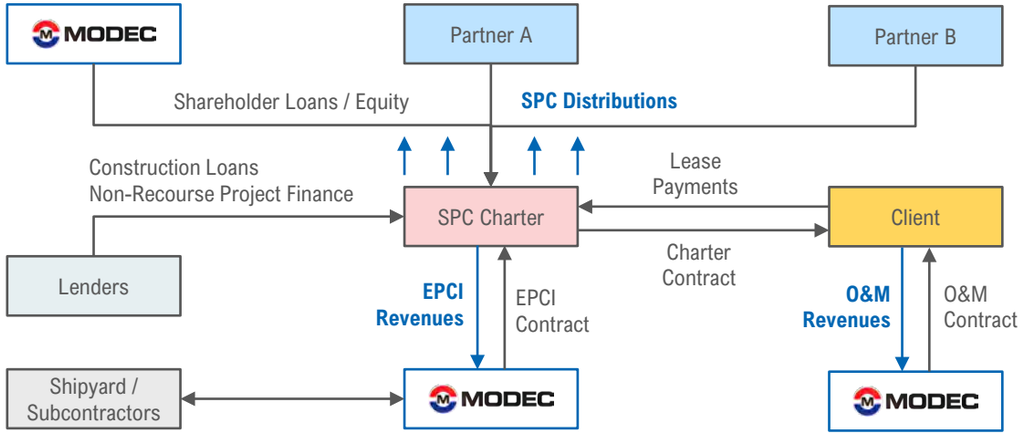
ビジネスモデル
契約形態

EPCI-to-Charter

当社が保有する23隻のうち17隻が EPCI-to-Charterストラクチャー

- EPCI-to-Charterの場合、当社は大別すると次の役割を同時にこなす： (1) FPSOを所有するSPCの少数株主（通常25-35%程度）として、FPSOをクライアントにリース、(2) EPCIの請負業者としてSPCに対しFPSOを建造、(3) O&M業者としてSPCがリース中のFPSOへのO&Mサービスを提供。
- 主要なSPCスポンサー/パートナーには、三井物産株式会社・商船三井株式会社、丸紅株式会社といった日本有数の企業が含まれる
- EPCIの当社顧客はSPCであり、SPCは (1) クライアントとの間で長期Charter契約を締結、(2) 当社を含むSP各社の保証のよる建中ローンを手配もしくは直接スポンサーから資金を借入する
- SPCはクライアントにFPSOを引渡し後、SPCはクライアントからCharter料を受取り、SPCは金融機関から定められた一定の融資条件の範囲内で当社を含む各スポンサーに対して持分に応じた収益の分配を行う
- SPCから各スポンサーへの分配は、融資契約上のDSCR（Debt Service Coverage Ratio）テスト等各種要件を充足した場合にのみ可能ながら、当社案件の平均DSCRは要求水準を大きく上回る

収入源: EPCI Revenues + O&M Revenues + SPC Distributions

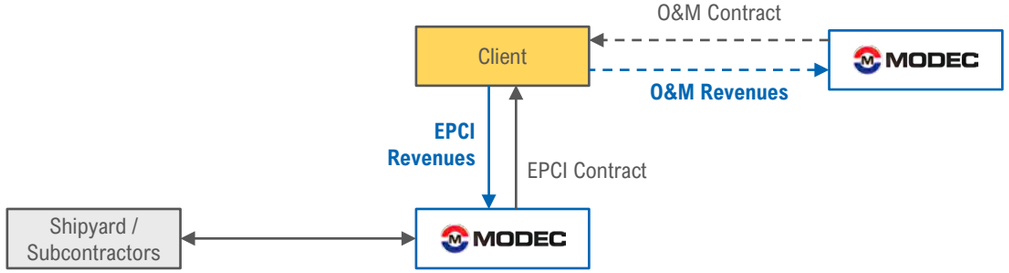


EPCI Only 又は EPCI+O&M

当社が保有する23隻のうち6隻はEPCI-Only 又は EPCI+O&Mストラクチャー
そのうち3隻が建造中

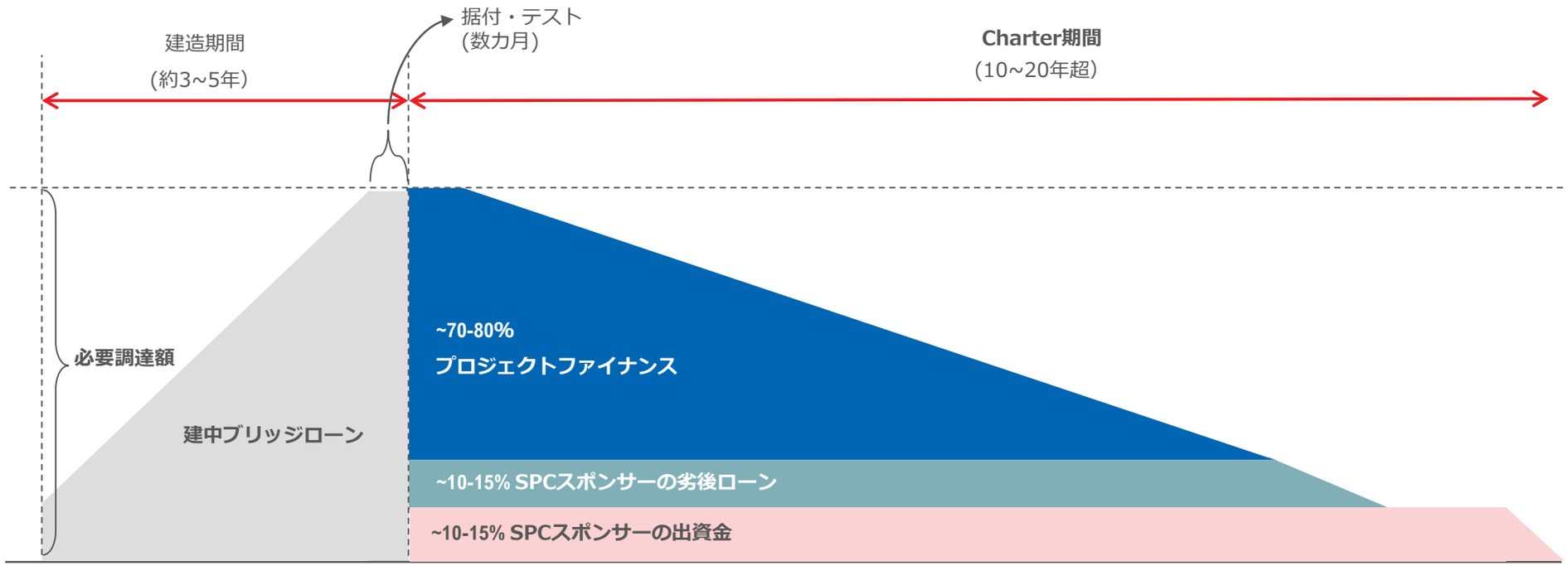
- EPCI Only：当社はクライアント（FPSOの所有者）と直接EPCI契約を締結し、FPSOの建造と引渡しを行う
- EPCI＋O&M：クライアントの要望により、当社がFPSOを建造・引渡し後、O&Mサービスを提供することもある

収入源: EPCI Revenues + O&M Revenues



ビジネスモデル
Charter事業の資金調達

当社は取引金融機関と良好な関係を築いており、建造からCharterまでFPSO事業に必要な資金を調達



- **建中ローン**: 各SPCスポンサーは建造期間中にSPCが必要な資金を各社の持ち分に応じた金額の建中ローンにより調達しSPCに貸付。当社持ち分については通常、本社である三井海洋開発株式会社が保証を差し入れてシンジケートローンにより資金を調達。
- **プロジェクトファイナンス**: 建造工事開始時にはアレンジ完了。 FPSOの引渡し時にプロジェクトファイナンスのドローダウン（長期ノンリコース）と同時に保証を差し入れている建中ローンを返済。
- **SPC株主資本**: 完工時に各SPCスポンサーの劣後ローンによる貸付及び出資を組み合わせて資金を拠出。

用語集

用語・定義

用語	定義
EPCI	Engineering, Procurement, Construction, and Installation（建造工事）
E&P	Exploration and Production（石油ガスの上流事業での主要なセグメント）
Deepwater (大水深)	水深500メートルから1,999 メートル
FEED	Front End Engineering and Design（基本設計）
FPSO	Floating Production, Storage, and Offloading vessel（浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備）
FSO	Floating Storage and Offloading vessel (FPSOと異なり生産設備を持たない)
Mtoe	Million or mega tonnes of oil equivalent
MOPU	Mobile Offshore Production Unit（移動式洋上生産設備）
MV1 - MV34	MODEC Venture (当社保有FPSOの呼称)
OECD	経済協力開発機構（ヨーロッパ諸国を中心に日・米を含め38ヶ国の先進国が加盟する国際機関）
O&M	Operations and Maintenance（オペレーション＆メンテナンス）
SPC	Special Purpose Company（特定目的子会社）
Special Maintenance Campaign (大規模修繕)	400人収容可能な宿泊船(Flotel)を活用した、2021年に開始したブラジルの旧船5隻の(MV15/18/20/22/23)の特別修繕活動
TLP	Tension Leg Platform（海底と浮体との緊張力（Tension）を利用して係留される洋上プラットフォーム）
Ultra-Deepwater (超大水深)	水深2,000メートル以深
Uptime (稼働率)	チャーター期間中のFPSOの稼働率（%）